

中部圏の若者意識調査(全体1)

- 中部圏で暮らす若者1,000人にアンケート調査を実施(内訳は①大学生400人、30歳までの就労者600人 ②愛知県423人、岐阜県99人、三重県78人、静岡県245人、長野県155人 ③男性500人、女性500人)
- 中部圏の若者は、中部圏を「住みやすく、働きやすい」と感じており、暮らしにも学業・仕事にも満足している。特に暮らしに対して満足している。
- 暮らしに対する不満では、「**娯楽の少なさ**」が1位、その他「進学や就職先の選択肢が少ない」ことや「都会への利便性の悪さ」が上位。
- 暮らしに対する満足度が低いほど転出意向が高い傾向があるため、転出対策として暮らしの充実が重要と考えられる

図1. 現在の暮らしに対する満足度

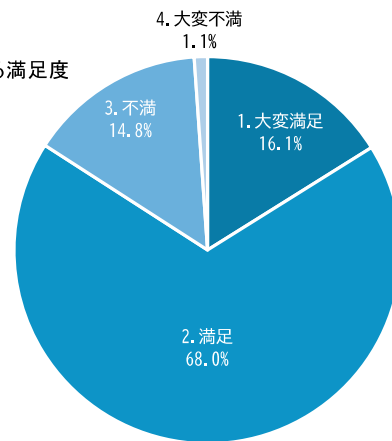
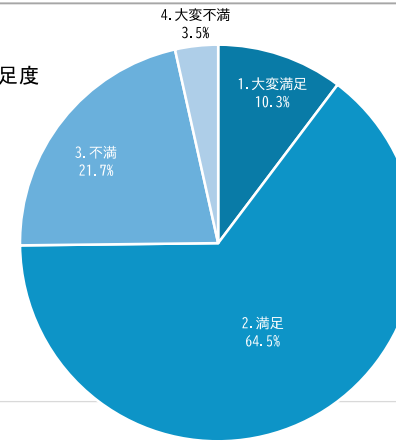


図2. 仕事・学業に対する満足度



選択肢	件数	グラフ
1.進学や就職の選択肢が少ない	251	25.1%
2.他人の干渉が多い	158	15.8%
3.年齢による区別がはっきりしている	65	6.5%
4.性別による役割の押しつけがある	87	8.7%
5.娯楽や生活インフラが充実していない	303	30.3%
6.伝統的な価値観を押し付けられる	119	11.9%
7.都会への利便性が悪い	275	27.5%
8.その他	18	1.8%
9.嫌だと思わない	307	30.7%
合計	1583	回答者数…1000人

図3. 暮らしに対する不満

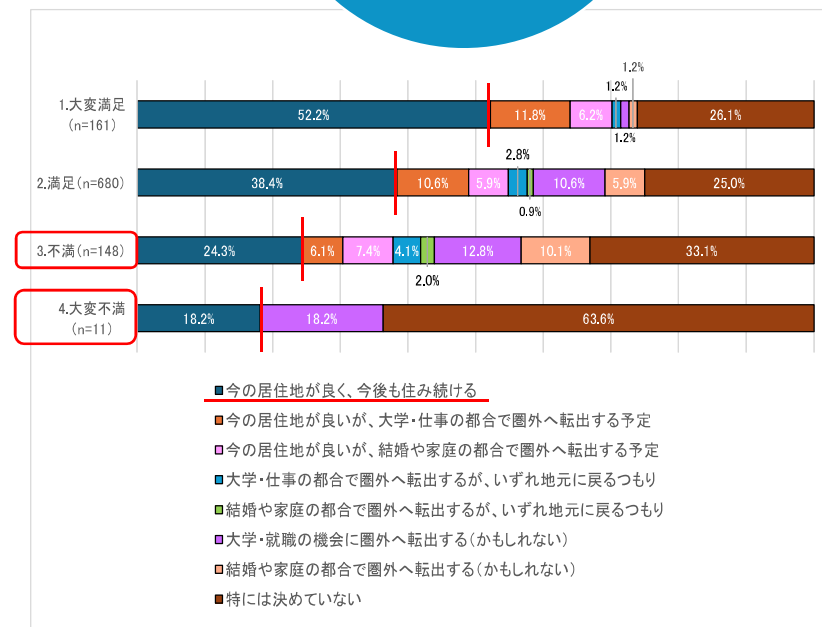


図4. 暮らしに対する満足度別の居住・転出意向

中部圏の若者意識調査(全体2)

- 「自分のレベルアップにつながる」「仕事を通じて社会に貢献できる」「自分の好きなことを仕事にできる」割合が高く、社会への関わりが満足度につながっており、起業・創業という形で社会に関わることが満足度をあげる可能性について示唆された
- 中部圏の若者の仕事に対する意識では、雇用意識が強く、起業・創業に興味や関心が薄い

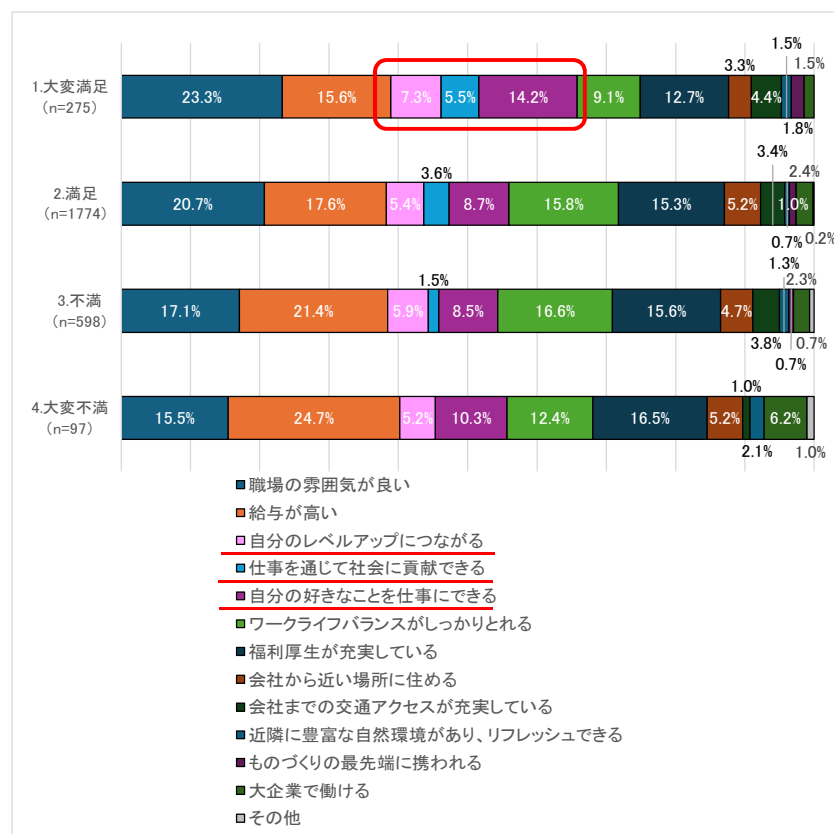


図5. 仕事・学業に対する満足度別魅力的な仕事の条件

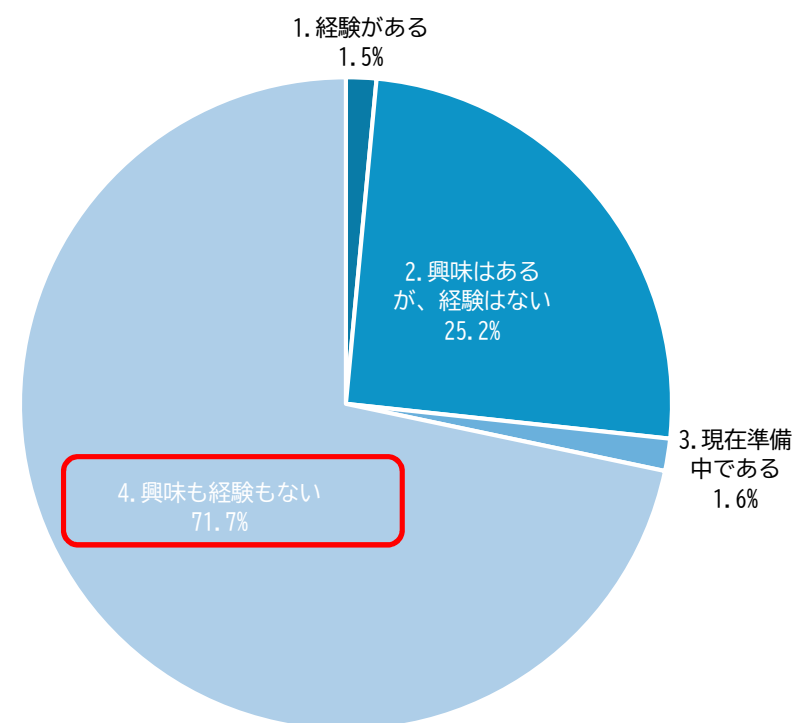


図6. 起業・創業への興味・経験

中部圏の若者意識調査(ジェンダー意識)

- 中部圏の若者は全国よりもジェンダーギャップを感じている人が多いことがうかがえる。
- ジェンダー意識において男女平等と捉える人が多いものの、職場環境や大学では「男性の方が優遇されている」と感じている女性が多い。
- 男性よりも女性の方が共働きを希望している傾向にあり、女性の働きやすさの向上に改善の余地があると考えられる。

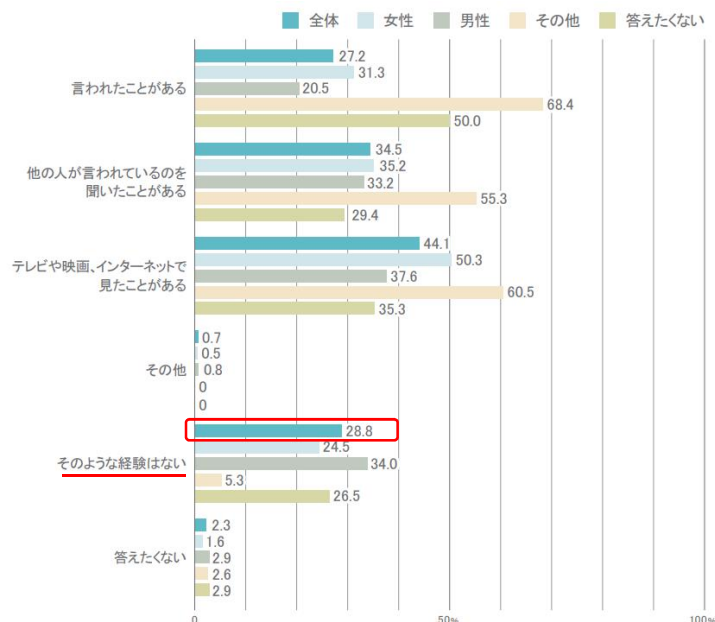


図7. ジェンダーギャップの経験

(出典: 日本の高校生のジェンダー・ステレオタイプ意識調査／プラン・インターナショナル)

※対象が異なる。対象: 日本の15～18歳までの高校生2000人

選択肢	件数	グラフ
1.自分自身が感じたことがある	307	30.7%
2.友人・知人から聞いたことがある	193	19.3%
3.メディアを通じて見聞きしたことがある	467	46.7%
4.感じたことも、見聞きしたこともない	189	18.9%
合計	1156	回答者数…1000人

図8. 普段の生活の中で「男性(女性)だから」「女性(男性)らしさ」という固定概念やプレッシャーにより生きづらいつと感じることがあるか

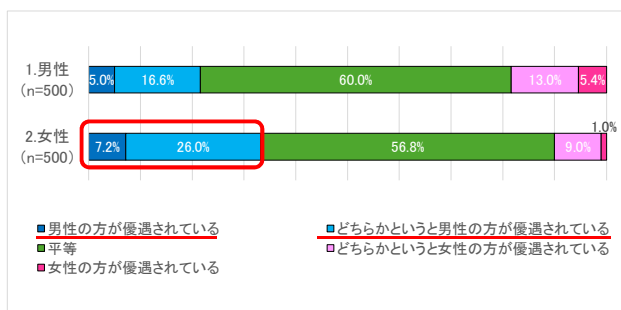


図9. 男女別の職場や大学での男女平等

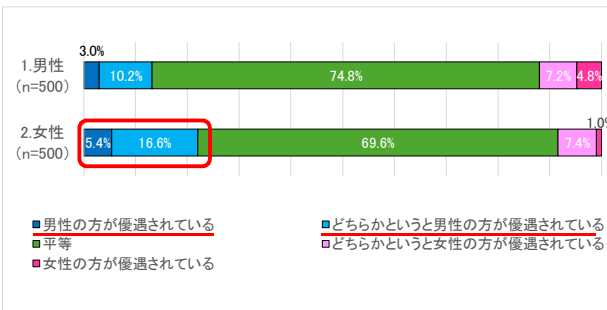


図10. 男女別の家庭や人間関係における男女平等

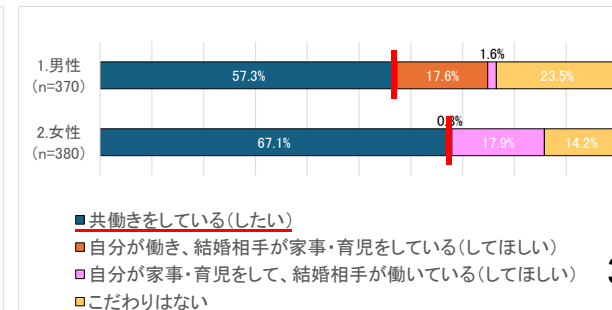
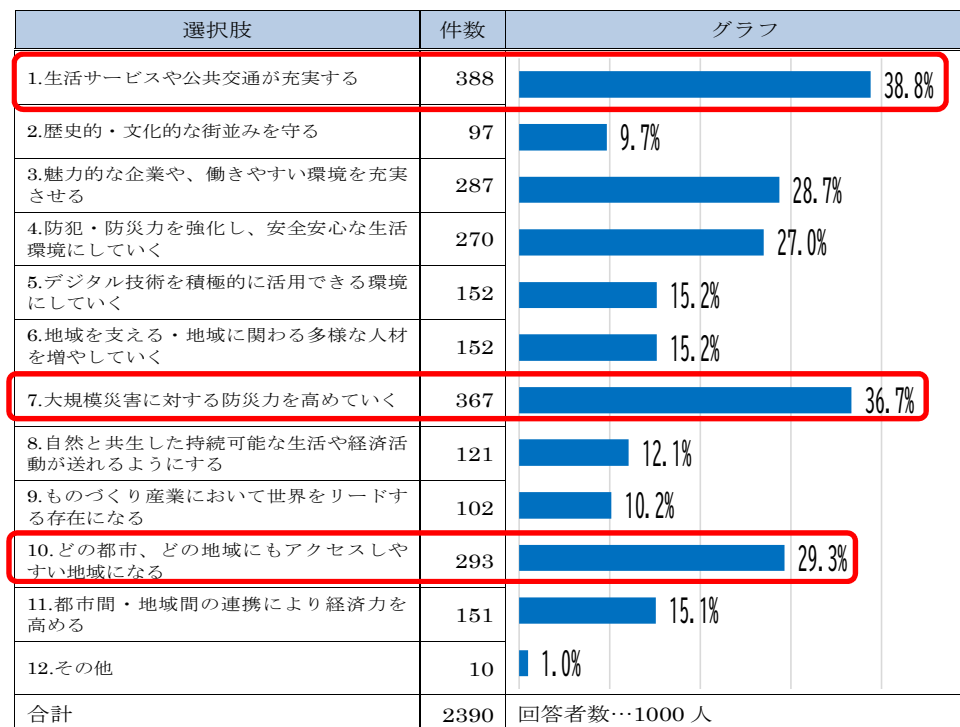


図11. 男女別の子供がいる場合の働き方

中部圏の若者意識調査(まとめ)

- 中部圏をより良くするために必要なこととしては「生活サービスや公共交通が充実する」ことを求める若者が多く、「防災」「アクセス性」と続いている。

図12. 中部圏がより良くなるためにはどのようなことが必要か



★若者が住み続けたいと思える中部圏になるためには

- ・ 娯楽の充実、移動や生活サービスの利便性向上
- ・ 進学・就職の選択肢の充実。「自己のレベルアップ」「社会貢献」「自分の好きなことを仕事にできる」ようにして、仕事・学業への満足度を高める

★女性が住み続けたいと思える中部圏になるためには

- ・ 大学や職場での男女平等の意識・環境づくり
- ・ 女性が子供を持ちながら働きやすい環境づくり